

繋がり of オンラインエスノグラフィ：  
吹奏楽部員の Twitter 利用に着目して  
An Online Ethnography about Relationship:  
Focusing on Twitter Use of Brass Band Members

学籍番号：201721673

氏名：末岡 真里奈

Sueoka Marina

モバイル機器の性能向上と、ソーシャルメディアの普及によって、オンライン世界とオフライン世界の境界が曖昧になり、人間関係の構築方法は大きく変化した。特に、中高生のソーシャルメディア利用と人間関係について、質問紙調査によって得られた研究成果が蓄積されている。しかし、それらの先行研究では、インターネット利用の規制方法の検討を重要視する傾向にあり、中高生のオンライン上の活動実態は未だ明らかでない部分が多い。

そこで、本研究は、中高生のオンラインエスノグラフィを行い、実際にオンライン世界で人間関係を築く中高生の実態に迫ることを目的とする。特に、オンライン世界とオフライン世界の交錯の様相に焦点を当て、人々の繋がり方を見ていく。また、インターネット・パラドクスの観点からも考察を行う。

中高生のソーシャルメディア利用率を考慮し、Twitter を調査フィールドとした。また、中高生の学校生活における部活動の重要性と、部活動ごとの Twitter 利用状況を考慮し、吹奏楽部員を調査対象とした。本調査は、Twitter 上での参与観察、およびそこから派生したオフラインでの参与観察と、調査対象に関する情報を得るためのオフラインでのインタビュー調査、および参与観察の2つに分けられる。

吹奏楽部員の Twitter 利用の実態について、本研究で明らかとなったことは、(1) ハッシュタグを用いたオンラインコミュニティの拡大、(2) オンラインコミュニティを起点としたオフラインでの繋がり of 創出、(3) 音楽的な繋がり of 拡張、(4) 既存の人間関係に大きな変化を起し得る問題提起の4点である。これらを総括すると、吹奏楽部員は Twitter 利用によって、吹奏楽(部)という関心を基軸に選択縁を獲得していると言える。また、インターネット・パラドクスの観点から考察できることは、Twitter を利用する吹奏楽部員にとってのオンラインでの繋がり of が、オフラインでの繋がり of より劣るものや代替であるとは言い切れないこと、およびオンラインでのコミュニケーションが持つ影響は、長期的視点を考慮した場合、ポジティブとネガティブの二項対立では表しきれないことの2点である。

研究指導教員：歳森 敦

副研究指導教員：照山 絢子